

「林産物利用」シラバス

単位数 2 (みどり環境コースの授業) 学科：林業緑地科 学年：2年生

1. 学習の目標

林産物の加工、利用に必要な知識と技術を習得させ、林産物の特性を理解させるとともに、林産物の多様な利用を図る能力と態度を育てる。

2. 授業の進め方

- ① コースに分かれての授業です。みどり環境コースの生徒がグループで活動ができるように班編成して、観察や実験・実習に対応できるようにします。
- ② 実際の・体験的な学習を重視し実践力を体得させる観点から観察や実験・実習を通して知識や技術を身につけさせます。
- ③ 実験・実習の時間が多いので実習服の準備を忘れないでください。又、筆記用具も準備してください。

3. 学習計画

学期	月	時数	単元名	学習内容	学習のねらい
1	4	6	(1)森林資源の循環利用と林業・林産業	ア 循環資源としての木材 イ 木造建築物と循環 ウ 林産業の現状と動向	◎光合成産物である木材が循環利用可能な資源であり、人間の生活に欠かせない素材として重要な役割を果たしていることを理解させる。
	5	6	(2)木材の性質と用途	ア 木材の構造	◎実験・実習を通して、木材の構造と性質を理解させ、木材の多様な利用を図る実践力を育てる。
	6	8		イ 木材の性質	
	7	6		ウ 木材の用途	
2	9	8	(3)製材と木材の工作	ア 製材 イ 木材の乾燥 ウ 木材の工作	◎地域林業の実態や学科の特色に応じて、題材として適切な林産物を選定する。 ◎加工、製造機械類の操作及び各種薬剤などによる事故の防止など安全の指導の充実に努める。 ◎本県の主な林木に関する知識と技術を習得し林木の保護の必要性を理解する。
	10	8	(4)木材の加工と利用	ア 改良木材の製造	
	11	8		イ 木材パルプと和紙 ウ 木炭	
	12	6		エ バイオマスの変換技術と利用	
3	1	6	(5)特用林産物の生産と加工	ア このこの生産と加工	◎地域の特用林産物を調査し、その加工の知識や技術を習得する。
	2	4		イ 山菜の加工 ウ 薬用植物の生産と加工	
	3	4		エ つるなどの加工	

4. 評価の観点・方法について

評価の観点	内 容	評 価 方 法
関心・意欲・態度	・持ち物（忘れ物）や授業態度（発言や姿勢、私語や携帯、頭髪や服装）、遅刻や欠席など総合的に評価	学習用具の準備 授業への取組 状況や態度 実習記録簿（自己評価）
思考・判断・表現	・自分のやるべき事と立場を理解し、責任ある行動がとれるか、総合的に評価する。	実習記録簿（自己評価） レポート 発表の内容や方法
技術	・実習に積極的に取り組んでいるか。 ・既存の知識に加え、自分なりに工夫しているか。 ・実習等で、その行動や技術をレポートや態度によって、総合的に評価する。	生産物の取り扱い 農機具・の取り扱い 実技試験 実習記録簿（自己評価）
知識・理解	定期考査（中間・期末）で、知識及び理解度を検査し、総合的に評価する。	定期試験・実験レポート 豆試験 農業鑑定の成績

その他

- ① 実験器具の安全な正しい取り扱いによる評価
- ② 定期試験、実技試験などによる評価
- ③ 学習ノート（学期2回）、実験・実習のノート（毎回）の提出による評価。
- ④ 出席、服装、態度など授業に取り組む姿勢

「林産物利用」シラバス

単位数 2 (みどり環境コースの授業) 学科：林業緑地科 学年：3年生

4. 学習の目標

林産物の加工、利用に必要な知識と技術を習得させ、林産物の特性を理解させるとともに、林産物の多様な利用を図る能力と態度を育てる。

5. 授業の進め方

- ① コースに分かれての授業です。みどり環境コースの生徒がグループで活動ができるように班編成して、観察や実験・実習に対応できるようにします。
- ② 実際の・体験的な学習を重視し実践力を体得させる観点から観察や実験・実習を通して知識や技術を身につけさせます。
- ③ 実験・実習の時間が多いので実習服の準備を忘れないでください。又、筆記用具も準備してください。

6. 学習計画

学期	月	時数	単元名	学習内容	学習のねらい
1	4	6	(1) 森林資源の循環利用と林業・林産業	ア 循環資源としての木材 イ 木造建築物と循環 ウ 林産業の現状と動向	◎光合成産物である木材が循環利用可能な資源であり、人間の生活に欠かせない素材として重要な役割を果たしていることを理解させる。
	5	6	(2) 木材の性質と用途	ア 木材の構造	◎実験・実習を通して、木材の構造と性質を理解させ、木材の多様な利用を図る実践力を育てる。
	6	8		イ 木材の性質	
	7	6		ウ 木材の用途	
2	9	8	(3) 製材と木材の工作	ア 製材 イ 木材の乾燥 ウ 木材の工作	◎地域林業の実態や学科の特色に応じて、題材として適切な林産物を選定する。 ◎加工、製造機械類の操作及び各種薬剤などによる事故の防止など安全の指導の充実に努める。 ◎本県の主な林木に関する知識と技術を習得し林木の保護の必要性を理解する。
	10	8	(4) 木材の加工と利用	ア 改良木材の製造	
	11	8		イ 木材パルプと和紙 ウ 木炭	
	12	6		エ バイオマスの変換技術と利用	
3	1	6	(5) 特用林産物の生産と加工	ア きのこの生産と加工	◎地域の特用林産物を調査し、その加工の知識や技術を習得する。
	2	4		イ 山菜の加工 ウ 薬用植物の生産と加工	
	3	4		エ つるなどの加工	

4. 評価の観点・方法について

評価の観点	内 容	評 価 方 法
関心・意欲・態度	・持ち物（忘れ物）や授業態度（発言や姿勢、私語や携帯、頭髪や服装）、遅刻や欠席など総合的に評価	学習用具の準備 授業への取組 状況や態度 実習記録簿（自己評価）
思考・判断	・自分のやるべき事と立場を理解し、責任ある行動がとれるか、総合的に評価する。	実習記録簿（自己評価） レポート 発表の内容や方法
技術・表現	・実習に積極的に取り組んでいるか。 ・既存の知識に加え、自分なりに工夫しているか。 ・実習等で、その行動や技術をレポートや態度によって、総合的に評価する。	生産物の取り扱い 農機具・の取り扱い 実技試験 実習記録簿（自己評価）
知識・理解	定期考査（中間・期末）で、知識及び理解度を検査し、総合的に評価する。	定期試験・実験レポート 豆試験 農業鑑定の成績

その他

- ⑤ 実験器具の安全な正しい取り扱いによる評価
- ⑥ 定期試験、実技試験などによる評価
- ⑦ 学習ノート（学期2回）、実験・実習のノート（毎回）の提出による評価。
- ⑧ 出席、服装、態度など授業に取り組む姿勢